

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

平成16年度病虫害発生予報第3号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成16年度病虫害発生予報第3号（6月）

【普通作物】

作物名	病虫害名	発生現況 (平成比)	発生予想 (平成比)
水稲	ツマグロヨコバイ 萎縮病 ヒメトビウンカ 縞葉枯病	並 - 多い -	並 並 多い やや多い

【普通作物 - 水稲】

1 ツマグロヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量：平成・前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、ツマグロヨコバイの片振り20回すくい取り成幼虫数は畦畔で0.08頭（平成：1.12頭、前年0.26頭）、休閑田で1.00頭（平成：2.85頭、前年：1.00頭）、小麦田で0.32頭（平成：0.19頭、前年0頭）であった。

2 萎縮病

(1) 予報の内容

発生量：平成・前年並

(2) 予報の根拠

ア ツマグロヨコバイのイネ萎縮ウイルス保毒虫率は0.3%（平成：0.7%、前年：0%）であった（平成16年度病虫害発生予報第2号参照）。

イ 5月5半旬調査の結果、ツマグロヨコバイの片振り20回すくい取り成幼虫数は平成並であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 萎縮病の常習発生地を除き、防除の必要はない。

イ 防除薬剤は「平成16年度普通作物病虫害防除の手引き」を参照する。（以下の病虫害についても同様）

3 ヒメトビウンカ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、ヒメトビウンカの片振り20回すくい取り成幼虫数は畦畔で0.08頭(平年：0.21頭、前年：0.32頭)、休閑田で5.70頭(平年：2.22頭、前年14.5頭)、小麦田で62.12頭(平年：37.16頭、前年25.56頭)であった。

4 縞葉枯病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は4.0%(平年：0.9%、前年：4.6%)であった(平成16年度病害虫発生予報第2号参照)。

イ 5月5半旬調査の結果、ヒメトビウンカの片振り20回すくい取り成幼虫数は平年よりやや多かった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 育苗期間中は保毒虫による感染防止のため、防虫網などによる防除に努める。

イ 常習発生地では、本田初期における感染防止対策として箱施薬を行う。

【果 樹】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
カンキツ	そうか病 黒点病 ミカンハダニ アブラムシ類	やや少ない - やや多い やや少ない	やや少ない やや多い やや多い やや少ない
ナシ	黒星病 ハダニ類 アブラムシ類	並 並 少ない	並 並 少ない
ブドウ	黒とう病 べと病	少ない -	やや少ない やや多い
カキ	炭疽病 うどんこ病 灰色かび病 フジコナカイガラムシ	並 やや少ない 多い 並	やや多い やや少ない 多い 並
イチジク	アザミウマ類	並	並
モモ、ナシ、 カキ、カンキ ツ等	カメムシ類	多い	多い

【果 樹】

1 カンキツそうか病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発病葉率は0.2%（平年：0.9%、前年：0.7%）、発病ほ場率は18.8%（平年：37.8%、前年：36.8%）であった。

イ 6月の気象予報では平均気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 果実では、落花直後～指頭大の時期に降雨が多いと感染、発病するので、この時期の防除を徹底する。

2 カンキツ黒点病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 前年10月5半旬調査の結果、発病葉率は9.2%（平年：0.9%、前年：4.3%）、発病ほ場率は50.0%（平年：23.1%、前年：66.7%）であった。

イ 6月の気象予報では平均気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 伝染源となる枯れ枝を除去する。

イ 降雨が続くと多発するので、積算降水量250mmを目安に降雨の間をぬって薬剤散布を行う。

3 カンキツのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、寄生葉率は18.6%（平年：10.0%、前年：4.2%）、発生ほ場率は68.8%（平年：42.8%、前年：47.4%）であった。

イ 6月の気象予報では平均気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 6月に高度精製マシン油乳剤を散布する。本剤は高密度時には十分な効果が得られないので、発生密度が高くなる前に散布する。また、落花期以降にデラン剤を散布した園地は、デラン散布後1か月以内に本剤を散布すると薬害を生じるので使用しない。

イ 薬剤防除にあたっては、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

4 ナシ黒星病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発病果率は0.3%（平年：0.5%、前年：0.1%）、発生ほ場率は13.3%（平年：13.6%、前年：6.3%）であった。

イ 6月の気象予報では平均気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 山間地等一部地域では発生が多いので、園内をよく観察して防除を行う。

イ 発病葉や発病果実は発生源となるので、できる限り取り除き処分する。

ウ 同一系統薬剤使用による薬剤感受性の低下を避けるため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

5 ナシのハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、寄生葉率は0.6%（平年：0.9%、前年：4.1%）、発生ほ場率は20.0%（平年：9.7%、前年：12.5%）であった。

イ 6月の気象予報では平均気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

合成ピレスロイド系薬剤は、ハダニ類の天敵を減少させ、リサ - ジェンスを引き起こすことがあるので使用を控える。

6 ブドウべと病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

(2) 予報の根拠

ア 前年 8 月 5 半旬の調査結果では、発病葉率は 16.4% (平年：10.1%、前々年：4.8%) で、菌の越冬量は多いと予想される。

イ 気象予報では 6 月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病後の防除は、効果が低いため予防散布を徹底する。

イ 罹病葉及び罹病果は発生源となるので、できる限り取り除き処分する。

ウ ボルドー液の散布は、降雨の直後の雨滴や散布直後に降雨があると薬害が発生するので注意する。

7 ブドウ黒とう病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 5 月 5 半旬調査の結果、発病葉率は 0.1% (平年：1.3%、前年：0.4%)、発病ほ場率は 7.7% (平年：26.8%、前年：21.4%) であった。

イ 6 月の気象予報では平均気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 罹病葉及び罹病果は発生源となるので、できる限り取り除き処分する。

イ 発生園は早めに袋かけを実施する。

8 カキ炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 5 月 5 半旬の調査では、発病枝率は 0.5% (平年：0.7%、前年：0.4%)、発病ほ場率は 37.5% (平年：23.6%、前年：17.6%) であった。

イ 6 月の気象予報では平均気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 罹病枝は発生源になるので、取り除き処分する。

イ 発病枝の多い園では、降雨により感染が拡大するので薬剤防除を徹底する。

9 カキ灰色かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

- ア 5月5半旬調査の結果、発病果率は3.5%（平年：0.6%、前年：0.3%）、発病ほ場率は62.5%（平年：26.6%、前年：25.0%）であった。
- イ 6月の気象予報では平均気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

発生の多い園は、落弁期の防除を徹底する。

10 カキのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年より少ない

(2) 予報の根拠

- ア 5月5半旬調査の結果、寄生枝率は1.6%（平年：1.7%、前年：8.3%）、発生ほ場率は31.3%（平年：37.6%、前年：76.5%）であった。
- イ 6月の気象予報では平均気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 第1世代幼虫出現期の6月上旬に1回目の防除を行う。更に10日後に2回目の防除を行う。
- イ 枝の重なり合っているところは薬剤がかかり難いので、防除を行う前に枝の整理を行う。
- ウ 本虫は、薬剤がかかり難い部位に多く寄生しているため、散布むらのないよう十分な薬量で丁寧に防除する。

11 イチジクのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

- ア 5月1半旬～5半旬までの誘引剤（農業総合試験場豊前分場）での、誘殺虫数は1,879頭（平年：1,092頭、前年：674頭）であった。
- イ 6月の気象予報では平均気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

園地周辺の畦畔等で、6～8月に開花する雑草に発生するので除草に努める。

12 モモ、ナシ、カキ、カンキツ等のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

- ア 5月1半旬～6半旬までの予察灯（県内6カ所）でのチャバネアオカメムシの誘殺虫数は、3,291頭（平年：347頭、前年：39頭）、ツヤアオカメムシの誘殺虫数は693頭（平年：197頭、前年：20頭）と多い。

イ また、同時期の集合フェロモントラップ（筑紫野市吉木）でのチャバネアオカメムシの誘殺虫数は6,825頭（平年：1,537頭、前年：115頭）と多く、ツヤアオカメムシの誘殺虫数は426頭（平年：527頭、前年：21頭）となっている。

7 防除上注意すべき事項

ア 気温が高い日は特に活動が活発になるので、果樹園への飛来に注意し、被害が予想される場合は防除する。

イ 防除薬剤は、樹種によって使用できる薬剤が異なるので注意する。

ウ 果樹カメムシ類の発生状況は病害虫防除所ホームページに掲載しているので参照する。（<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka>）

【茶】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
茶	炭疽病 もち病 カンザワハダニ チャノコカクモンハマキ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	並 並 やや多い 並 並 並	並 並 やや多い 並 並 並

【茶】

1 炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月2半旬調査の結果、発病葉数は0葉（平年：0.2葉、前年：0葉）であった。

イ 気象予報では、6月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 二番茶摘採後の残葉での発生に注意し、萌芽から1葉期までに薬剤防除を実施する。

イ 雨滴により孢子が飛散伝搬するので、降雨前の防除が効果が高い。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 5月2半旬調査の結果、寄生葉率は9.8%（平年：6.3%、前年：0.2%）で、50葉当たり寄生虫数は平均18.3頭（平年：17.7頭、前年：0.1頭）であった。

イ 気象予報では、6月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、寄生葉率が2%以上である場合は防除を行う。

3 チャノコカクモンハマキ

(1) 予報の内容

発生時期：平年・前年よりやや早い

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月2半旬調査の結果、被害葉数は0葉（平年：0.00葉、前年：0.01葉）であった。

イ 4月1半旬～5月5半旬までのフェロモントラップの誘殺虫数は次のとおりである。調査地：筑後市 326頭（平年：417頭、前年：355頭）

八女市 209頭（前4か年平均：175頭、前年：142頭）

ウ 越冬世代成虫の発蛾最盛期は、筑後市は4月4半旬、八女市は4月3半旬で、平年より1～2半旬早い。

エ 気象予報では、6月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 第1世代成虫の発蛾最盛期は、平年よりやや早いと予想されるので、ほ場での成虫の発生に注意し、発蛾最盛期の7日後に防除を行う。

イ 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉が見られたら直ちに防除を行う。

4 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月2半旬調査の結果、たたき落としによる虫数は、平均0.4頭（平年：0.2頭、前年：0.2頭）の発生であった。

イ 気象予報では、6月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、たたき落とし（A4版白紙上）で4頭以上発生している場合は防除を行う。

5 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 5月2半旬調査の結果、たたき落としによる虫数は、平均5.4頭（平年：4.2頭、前年：0.1頭）であった。

イ 気象予報では、6月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、たたき落とし（A4版白紙上）で10頭以上発生している場合は防除を行う。

【野 菜】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
アスパラガス	斑点病 ハダニ類 アブラムシ類 アザミウマ類 ヨトウ・タバコガ類	少ない 並 並 多い 並	少ない 並 やや少ない 多い 並
ネギ	シロイチモジヨトウ	多い	多い

フェロモントラップによる誘殺

1 アスパラガスの斑点病

(1) 予報の内容

発生量：平年より少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発病株率は0%（平年：5.4%、前年：0%）であった。

イ 6月の気象予報では、平均気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 過繁茂になると多発するので、整枝を行いほ場内の通風をよくする。

イ 発病部位はできる限り取り除き、薬剤防除を徹底する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2 アスパラガスのアブラムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、寄生株率は8.3%（平年：14.5%、前年：11.7%）であった。

イ 6月の気象予報では、平均気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難になるので、発生状況に十分注意し、初期防除を徹底する。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

3 アスパラガスのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、寄生株率は65.0%（平年：48.9%、前年：47.2%）であった。一部のほ場では多発している。

イ 6月の気象予報では、平均気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難になるので、発生状況に十分注意し、初期防除を徹底する。

4 ネギのシロイチモジヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 5月2半旬～5半旬のフェロモントラップによる誘殺虫数は78頭（平年：21.9頭、前年：6頭）であった。

イ 6月の気象予報では、平均気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

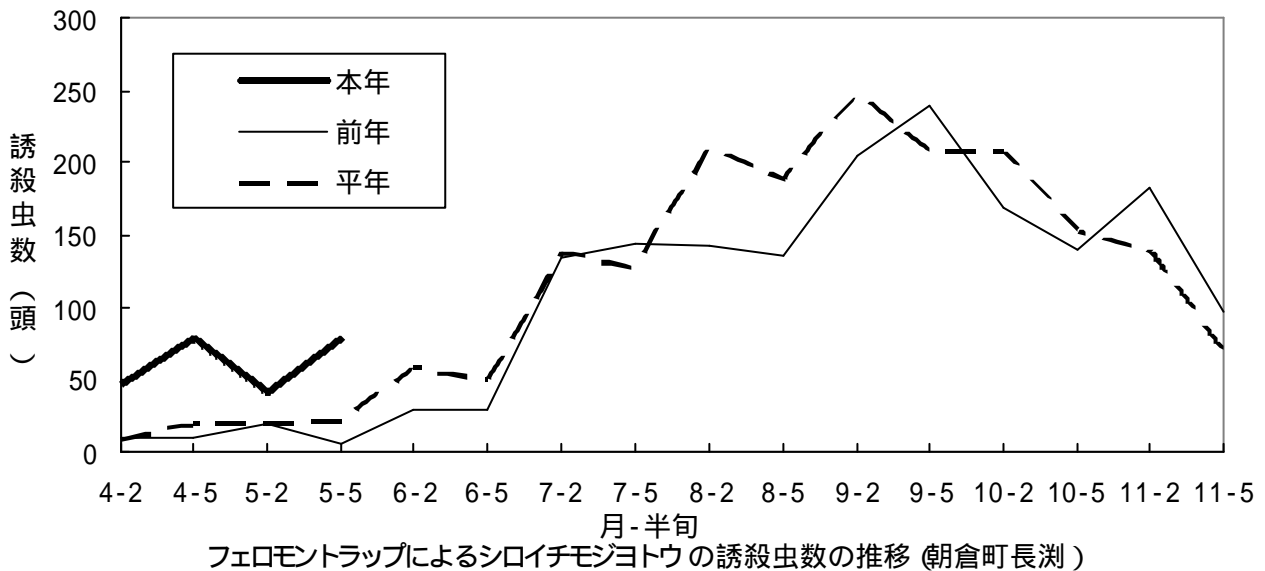
ア 本年は、誘殺虫数が平年より多く推移しているため、今後の発生動向に注意する。

イ 中齢以降の幼虫に対しては薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、薬剤防除は孵化直後の幼虫をねらって行う。

ウ 施設栽培では、成虫の飛び込み防止のため4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。

エ 葉身に産みつけられた卵塊から孵化した幼虫は、葉身内に食入し、内部から食害するため、卵塊や初期の被害葉は見かけたら、直ちに除去する。

オ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺虫数の推移 (朝倉町長淵)

6月の気象予報（1か月）

（予報期間5月29日～6月25日）

2004年 5月28日

福岡管区気象台発表

【概要】

向こう1か月の平均気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない可能性が大きいでしょう。

九州北部地方では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。

【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	20	30	50
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

- < 1週目の予報 > 5月29日～6月4日
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 6月5日～6月11日
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 6月12日～6月25日
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいでしょう。

参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量(mm)	日照時間(h)	1週目	2週目	3-4週目
22.4	248.1	159.6	21.0	21.9	22.9

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス
電子メールアドレス

<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka>
kfok0301@sp.jppn.ne.jp